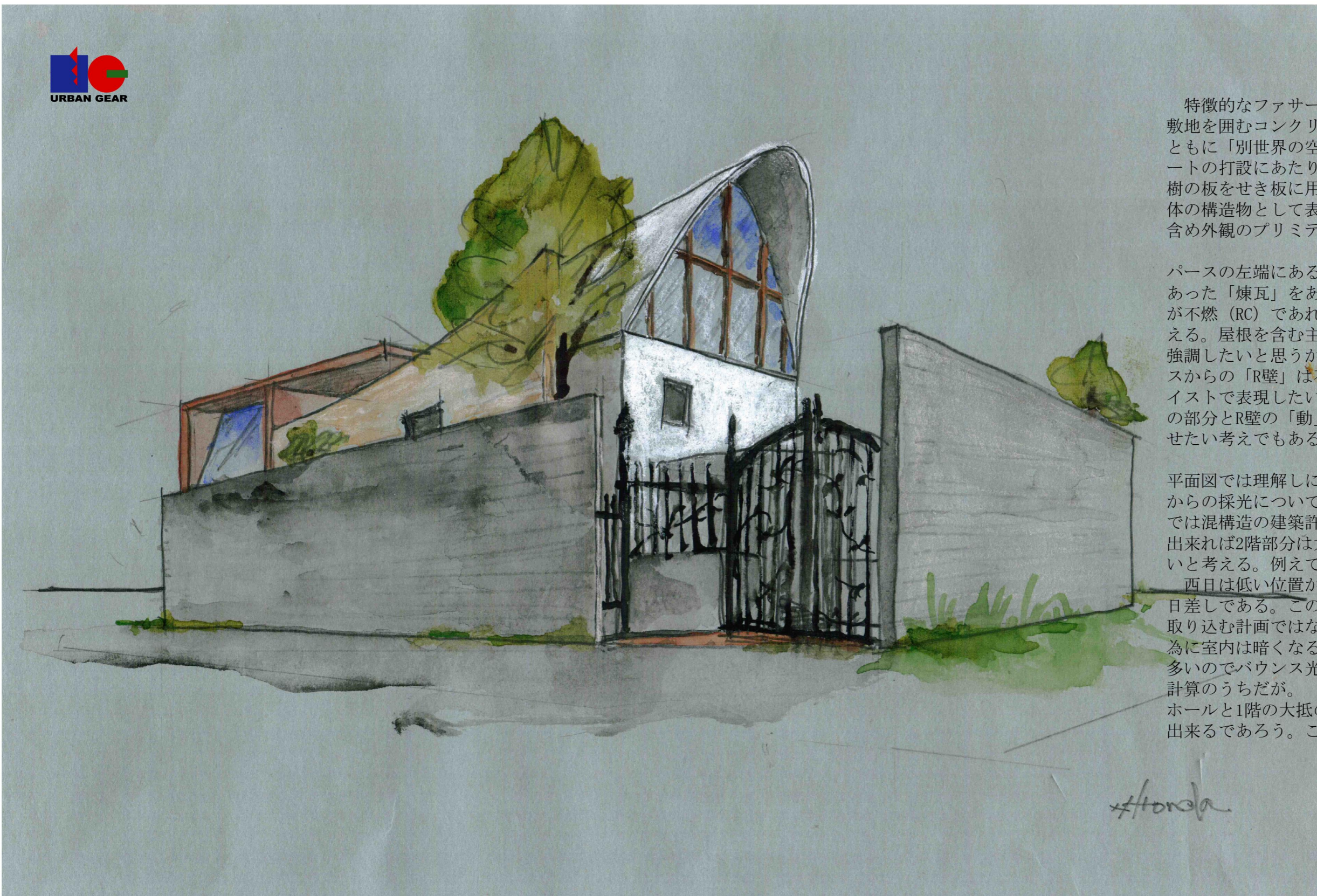




URBAN GEAR



特徴的なファサードは曲面と平面で構成されている。敷地を囲むコンクリートの塀は外部からの視線を遮るとともに「別世界の空間」を構築する。一般的にコンクリートの打設にあたり型枠用パネルを用いるが、私は針葉樹の板をせき板に用いて木目を表す事によって敷地を一体の構造物として表現したいと考える。これは内部を含め外観のプリミティブな素材を強調させる意図がある。

パースの左端にある茶色の部分はクライアントの意向にあった「煉瓦」をあしらった壁にとも考えたが、構造体が不燃（RC）であればシーダー葺きで表したいと強く考える。屋根を含む主な構造体は純白の漆喰やペイントで強調したいと思うからだ。またゲスト用のエントランスからの「R壁」は石張りや塗り壁といったアルチザンテイストで表現したいと考える事から、面構成された「静」の部分とR壁の「動」の部分とのコントラストを明確にさせたい考えでもある。

平面図では理解しにくいであろう2階のホールや吹き抜けからの採光について少し解説を加えたいと思う。昨今では混構造の建築許可は、なかなか下りないのであるが、出来れば2階部分は大断面集成材によるドーム天井にしたいと考える。例えて言うなら教会のそれである。

西日は低い位置から色温度の低い「暖か味」を持った日差しである。この計画は無理に南からの日射を室内に取り込む計画ではない。パティオの美しさを強調する為に室内は暗くなるように計画した。もちろん開口部が多いのでバウンス光が室内に柔らかく回るであろう事も計算のうちだが。しかし午後の3時頃を過ぎた所で2階ホールと1階の大抵の場所から「劇的な変化」を望む事が出来るであろう。これは1日のほんの一時の演出だ。

Honda



「パティオの家」

URBAN GEAR

<http://urbangeardesign.com>

atelier@urbangeardesign.com